

尾瀬ネットワーク通信

2007年2月20日 VOL10. 1(30) NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

至仏山東面登山道調査結果を報告

～ 4月14日の環境問題研究・活動報告で～

尾瀬自然保護ネットワーク（以下NW）は、来る2007年4月14日（土）に東京・池袋の桐杏学園で開かれる「環境諸問題第1回研究・活動報告会」で、「至仏山東面登山道調査10年の歩み」（仮題）を報告する。報告者には、第1回調査が1997年8月に開始されてから毎年欠かさず担当役員として精力的に活動を続けてきた永島勲理事（当時幹事）をお願いした。会員各位のご参加をお待ちしている。詳細については別項の記事を参照されたい。

行政が強行再開

すでにご存知とは思いますが、同登山道は貴重な至仏山の高山植物の保護、登山道の整備、登山道辺縁の植生の復元等を図るため、1989年（平成元年）から閉鎖されていた。ところが1997年（同9年）に突然、前触れもなしに再開された。再開に当たっては自然保護団体に対して形ばかりの現地説明会があり、NWからは本戸信男幹事（当時）が参加。「登山道の再開は時期尚早であり、さらに荒廃が加速するのは明らかである。当面、このまま閉鎖を続けるべきだ」と他の団体とともに反対抗議をしたが、結局、行

政側に押し切られてしまった。

当時の尾瀬入山者は現在の2倍くらいあり、折からブームだった『日本百名山』巡礼登山者？として「至仏山」「燧ヶ岳」に登る入山者も少なくなかった。そのせいかどうかは知らないが、説明会の参加者に山小屋関係者の顔も見られたという。

このように横暴で無知で恥知らずな行政や尾瀬で“営業”をしている人たちに再考を促すには、抗議行動の裏づけとなる確たる証拠を突きつけるしかない。そこで現地説明会が開かれたその月のうちに、早速、第1回調査を実施した。幹事会での決断も早かったが、調査に乗り出した永島理事の行動も早かった。

参議院環境委員会が取り上げる

調査には多くの指導員の方々に参加していただいた。また、毎年OMCカードの助成金をいただいた。心から感謝を申し上げたい。

調査が5年目を終わったところで、当時の環境庁（現、環境省）の国立公園課長に面談。同登山道の即時再開を申し入れた。しかし、「この問題は日光事務所（当時）の所管であるので、どうぞそちらに」というのみ。

腹を立てて役所を出て永島、磯部、事務局長と別れたが、救いの神が現れたのである。天はNWを見捨てなかった。事務局長が、旧守る会の国会のロビイストともいべき大中睦夫さんに偶然、庁舎の外で会ったのだ。この人の紹介で参議院環境委員長だった小宮山洋子議員にお会いすることができ、2～3日後にはタイミングよく、環境委員会の谷博之議員（民主）の質問時間に組み入れていただいた。

環境問題第1回研究・活動報告書

日時：4月14日（土）13：00～16：00

会場：桐杏学園6階会議室

（JR池袋駅西口から徒歩4分）

主催：（財）緑の地球防衛基金

後援：（株）オーエムシーカード

テーマ：オゾン層問題

：至仏山東面登山道調査

：地球温暖化問題

その席で当時の環境大臣、副大臣、自然保護局長が早急に実態調査を行うことを約束。日本自然保護協会の横山隆一さんを中心に3年間の調査を経てようやく対策が立てられるところまで、こぎつけることができた。

一言で10年というが、東面登山道の登りのように険しく、苦しく、それだけにやりがいのある調査だったと思う。

(高橋 喬)

大量投棄のゴミ撤去作業に参加して

昨年9月、山の鼻で30年以上も前に投棄された大量のゴミが発見された。そのゴミの撤去作業に参加しましたので、報告いたします。

撤去作業日：平成18年10月13日～17日

私は16日(月)17日(火)の2日間、撤去作業に参加しました。

投棄現場：山の鼻「無料休憩所」の西方40m先の小さな沢

仕分場所：山の鼻「無料休憩所」西側の空き地
作業時間：9:00～15:00

事務局：群馬県尾瀬保全推進室、尾瀬保護財団

参加者：尾瀬ボランティア、片品村ガイド協会、山小屋組合、尾瀬林業、東京電力など

16日(月)は25名程

17日(火)の最終日は20名程

作業内容：

投棄現場の沢からスコップや唐鍬でゴミを掘り出し、袋に詰めて1輪車で仕分け場所に運ぶ。ゴミを「ビン・缶・ビニール類・乾電池」の4種類に分別して袋に入れる。

小袋に入れたビニール類のゴミ(一袋の重さ



沢から掘り出した分別前のゴミの山

は2kg程度)は、山の鼻ビジターセンター前に移し、下山する入山者に鳩待峠まで運んで頂きました(最高230袋/16日)。入山者にゴミ運搬依頼について説明すると、大変協力的で大勢の方に運んで頂きました。

大袋に入れたビン・缶類のゴミは公衆トイレ脇の空き地に運び、一時保管後10月19日にヘリコプターで域外に搬出しました。(新聞報道では5トンあるいは8トン搬出)

これらの大量のゴミは1970年代以前に投棄されたもので、山の鼻の西方にある小さな沢の中に埋められていた。ビン類の主なものはウイスキーのポケットビン、ビールビン、日本酒のワンカップ、ジュース類の空きビンなど。主な缶類は缶ビール、缶詰、清涼飲料などの空き缶で、かなり腐食が進んでいました。なかにはゴミ持ち帰り運動前に使われていたと思われる鉄製の大きな「ゴミ箱」のつぶれたものもありました。



入山者に運んでもらったビニール類のゴミ袋【感想】

長靴を履き厚手のゴム手袋で作業を行ったが、ガラスで手を切った人もいました。天候にも恵まれたうえ、ゴミから悪臭が出なかったのは幸いでした。参加者は中高年者が多かったが、腰が痛いと言いながらも、お互いに協力しながら非常に熱心に作業を行っていました。

昼食時に山の鼻ビジターセンターで出して頂いだいた暖かい「お吸い物」は参加者に大変好評でした。

掘り出されたゴミからは、今はないデザインの懐かしい容器もあり、当時の世相を思い起させる場面もありました。

ゴミの量は膨大で、ゴミ袋も足りなくなり追加するほどでした。5日間の作業日程では時間不足は否めないと感じました。

昨年8月の尾瀬サミットで「ゴミのない尾瀬

宣言」が出され、尾瀬単独の国立公園化へのこの機会を捉えて尾瀬の過去の「負の遺産」は全て清算すべきであると考えます。

この大量のゴミは今回、全て撤去された訳ではありませんので、来年も撤去作業は行われるものと思われます。

今年もボランティアによる作業が行われる場合は、NWも参加者を募り、ゴミの撤去に協力していきたいと考えております。

(群馬側担当理事：永島 勲)

至仏山登山道利用実態調査

昨年は至仏山登山道調査開始 10 周年を記念して、5 月の残雪期と7月の夏期の2回登山道利用実態調査を実施しました。本号には残雪期の登山道調査について報告いたします。

<残雪期の至仏山登山道調査>

調査日：平成 18 年 5 月 4 日～5 日、快晴

調査者：加藤憲司、坂本敏子、鎮目安康、清水博之、永島 勲、西山伸一、前田悦子、前田佳胤、松前雅明、横田有弘、吉田敏男

調査項目： アンケート調査
マイカーの駐車台数調査
入山者数の調査
鳩待峠 至仏山の入山者の動向

調査総括：

鳩待峠へのマイカー乗り入れは 145 台と多かった。うち路上駐車は 35 台。これは残雪期にはマイカー規制がないことに加え、重いスキー板やボードを持って公共の交通機関に乗り換えるのを嫌ったためと思われる。

また、路上駐車については鳩待峠の駐車容量をオーバーする車の乗り入れがあったためと思われる。もしくは、駐車料金(2500円)の支払を回避するために路上駐車したものと思われる。

入山者(総数233人)の内訳は、登山者が136人で58%、スキーヤーが76人で33%、ボーダーが21人で9%であった。ボーダーには若者が多かった。単独の入山者は少なく、ほとんどがグループ(最大は9人)による入山であった。アンケートから見ると残雪期の至仏山には初心者は少なく、登山経験もあるリピータが多いように感じました

鳩待峠から10分ほど登った稜線上に「テント」一張りあり(男子2名)。特別保護地区内につきテントは指定された場所以外では禁止

の旨を説明して、理解を求めました。

入山者の登山装備面では、スニーカーでザックなどの装備を持たない家族連れ(5人)が入山していたが、鳩待峠から30分ほど登った地点で下山していった。この家族連れ以外は程度の差はあったが、残雪期向きのしっかりした装備(アイゼン・防寒衣等)が多かった。また、少数ではあったが、スノーシューの入山者も見られた。

鳩待峠近くの登山道における積雪は2メートル。この時期の雪は締まっていて靴が潜ることもなく比較的歩き易い。登山コースは入山者が多く、トレースもしっかりしていたうえ、樹木への赤丸や赤布で迷うことはなかった。コースは夏道とは異なり、かなり右より(オヤマ沢側)にあり、小至仏山のピークは通らずに東側をトラバースする。

至仏山へは稜線の南斜面から登るようになっている。私たちが調査した範囲では登山道(トレース)を外して歩く人はいなかった。

コース全体でゴミは極めて少なく、拾ったゴミは「お菓子の空箱」とアイゼンの「雪除け板」がそれぞれ1個ありました。



11名の会員が調査に参加した
入山料については半数の方が1000円、3割の方が500円と回答し、自然保護等に有効活用するなら2000円でも良いという意見もありました。入山料反対の方も1名いました。入山料徴収に関しては総じて肯定的な意見が多かった。

平成14年の自然公園法の改正により法律上も入山料徴収への道が開かれている。その第1歩として至仏山の入山料徴収に向けた具体的な検討を進め、早期に実施に移して頂きたいと思っております。

実施に当たっては入山料の料金設定根拠の

開示や効率の高い徴収システムの開発、更に入山料の用途についても極力、尾瀬の自然保護に活用するように願います。

(至仏山調査担当理事：永島 勲)

2007(平成19)年度 活動計画(案)

群馬側活動計画

1.入山指導及びシカ調査

(1) 入山指導

並木駐車場及び鳩待峠・山ノ鼻・牛首・東電小屋近辺を中心に、入山指導・自然解説を行い、自然環境保護の大切さを訴えます。ゴミ拾い等の清掃活動も実施します。

(2) シカ調査

山ノ鼻～竜宮の木道より、ビームライト照射による野生シカ生息数の調査を行います。結果は関係機関に提出され、今後のシカ対策の資料となります。

(3) 活動日程

・第1回目 6月15日(金)～17日(日)

6月15日 集合

16日 日中...入山指導・清掃活動

夜間20時～17日1時シカ調査

17日 午前中解散

・第2回目 8月31日(金)～9月2日(日)

8月31日 集合

9月1日 日中...入山指導・清掃活動

夜間20時～2日1時シカ調査

2日 午前中解散

両日とも、初日の宿泊はプチホテルアップル(戸倉)・2日目は尾瀬ロッジ(山ノ鼻)です。なお、申込みは1週間前までに清水または坂本まで。

2. 自然観察会

<アヤマ平から富士見峠>

かつて、尾瀬への一番ルートであった富士見峠は、今ではほとんど人影は見られなくなり、山上の楽園アヤマ平は静寂の中にあります。今回は、裸地化されたアヤマ平の移植再生事業およびアヤマ平に続く尾根筋の高層湿原を観察します。

実施日程 7月6日(金)～7日(土)

コース 戸倉...鳩待峠...横田代...アヤマ平...富士見小屋...富士見峠...富士見下...戸倉(歩行約12.6km 5時間)

宿泊 プチホテル アップル

費用 会員1万円・一般1万2千円

定員 10名

申込み 6月30日迄に清水又は坂本へ

群馬側担当理事 清水博之 027-361-8055

々々 坂本敏子 043-250-4882

福島側活動計画

1.入山指導

会津バス添乗解説および裏燧林道入山口、大江湿原周辺での定点指導、御池駐車場付近、登山道でのゴミ拾い等の清掃活動、アイドリングストップの呼びかけ運動の実施等。

添乗解説日程

1回目 5月25日(金)26日(土)27日(日)

2回目 6月8日(金)9日(土)10日(日)

3回目 7月20日(金)21日(土)22日(日)

研修会 8月18日(土) 観察会 19日(日)

4回目 9月15日(土)16日(日)17日(月)

5回目 10月12日(金)13日(土)14日(日)

バス添乗解説時にベンチ留守番に協力できる方、参加ご協力をお願いいたします。

2.研修会・観察会

(1) 研修会

日程 8月18日(土)

集合場所 桧枝岐村 民宿ひのき屋

集合時間 18日 午後3時30分

研修会の内容

18日 午後4時より桧枝岐歌舞伎と桧枝岐村の歴史文化講演会

講師 星 正徳氏 千葉の屋花駒座前座長
歌舞伎鑑賞 講演終了後、歌舞伎舞台に移動(徒歩10分)

懇親会 歌舞伎鑑賞後午後8時30分より

(2) 観察会

日程 8月19日(日)

観察場所 竜門の滝(尾瀬5滝の1つ)見学と周辺散策・桧枝岐裁ちそばで昼食後、解散

参加費 会員9千円・一般1万2千円

宿泊先 民宿ひのき屋 0241-75-2115

申込み締め切り 5月30日

問い合わせ申込み先

添乗解説担当 佐藤信良 022-309-6725

磯部義孝

研修会担当 磯部義孝 0248-76-4319

福島側担当理事 磯部義孝・佐藤信良
総合活動計画

1. 残雪期「尾瀬沼」観察会

日 程：5月4日(金・休)～5日(土・祝)
コース：4日の夕方宿舎に集合、翌5日に大清水から三平峠を越えて三平下及び尾瀬沼東岸まで往復します。

観察ポイント：尾瀬沼の積雪状況と水位、アカシボ、取水口と排水口(水量)、護岸工事の確認、コース状況(夏道との相違点)など。途中、ナメ沢にある「排水口」を観察します。尾瀬沼の水は三平下の「取水口」から取水し、850mのトンネルを経てナメ沢の「排水口」から片品水系に落としています。

(注) 残雪期の登山道は冬路沢に沿って三平峠へ直登するので、排水口へは、冬路沢を登り詰めて夏道に合流する当りで、左側(西)へ戻るように樹林帯内を歩きます。

宿 舎：片品村戸倉「一仙」

(注) この「尾瀬沼」観察会は、一般(会員外)の方も参加できます。

永島理事と清水理事が担当します。

2. 指導員研修会「笠ヶ岳登山道調査」

昨年の笠ヶ岳登山道調査が悪天候につき途中で中止となったため、再度実施します。片藤沼周辺も調査し、みなかみ町側に下山します。

実 施 日：7月27日(金)～28日(土)1泊2日
27日の夕方宿舎に集合、翌28日に調査を実施します。

調査項目：登山道およびその周辺の植生の破壊(裸地化)状況の調査

宿 舎：鳩待峠「鳩待山荘」

(注) 笠ヶ岳・片藤沼を調査後は咲倉尾根避難小屋を経由してみなかみ町の湯の小屋温泉「葉留日野山荘」へ下り、タクシーで戸倉に戻ります。

3. 指導員養成講座

今年は受講生の募集方法に工夫を凝らしたいと思います。

「山と渓谷」7月号、朝日新聞「マリオン」等に掲載する予定です。

日 程：室内研修... 7月21日(土)
午後、ジャングルム
現地研修... 8月24日(金)～26日(日)
2泊3日

場 所：アヤマ平・尾瀬ヶ原など

講 師：永島、磯部、椎名、松前、前田(佳)

宿 舎：富士見峠「富士見小屋」・戸倉「一仙」

4. 大量投棄のゴミ撤去作業

群馬県(尾瀬保護財団)から連絡が入ったら参加者を募ってNWとしてゴミ撤去作業を支援します。日程・場所等は未定。

+++++
**NPO尾瀬自然保護ネットワーク
総会のお知らせ**

今年は雪不足で暖かい日が続いております。会員の皆様にはお元気でお過ごしのことと思います。19年度の総会を下記により開催いたします。是非ご出席頂きご意見を伺いたいと存じます。OMCの助成団体発表会があるため総会が遅くなります。会報の活動計画案を元に計画をお立てください。総会で決定次第実行します。

日 時：2007年4月28日(土)13:00

場 所：大宮ソニックシティ 903号室
048-674-4111

議 題：

1. 2006年度活動・会計・監査報告
2. 2007年度活動計画案・予算案
3. その他
4. フリートーク
5. 懇親会

事務局から

総会当日は

年会費：3,000円・保険料：1,500円
をご持参ください。

なお、保険料は一括契約納付しますので、当日欠席される会員の方は、総会までに上記の保険料1,500円を振り込んでください。

(事務局長 椎名 宏子)

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

〒100-0014

東京都千代田区永田町2-17-5-203(株)SEC内

電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178

http://www.geocities.jp/oze_net/

理事長 高橋 喬
事務局長 椎名 宏子
編集担当 島上 健
HP担当 東雲 明



残雪期の“尾瀬沼観察会”参加者募集のご案内

平成19年2月
尾瀬自然保護ネットワーク
(担当理事：永島勲、清水博之)

GWに残雪期の「尾瀬沼観察会」を下記の通り実施します。雪の尾瀬沼は静寂に包まれ、夏季とはまったく異なる姿を見ることが出来ます。天候に恵まれれば、融け始めた湖面には「逆さ燧」も見られるでしょう。なお、観察会につき会員外の方も参加可能です。

記

- 日 程 **平成19年5月4日(金)～5日(土)**【前泊して5日に観察会/雨天決行】
- 集 合 集合時間：5月4日(金)午後5時
集合場所：群馬県利根郡片品村戸倉 鳩待峠行きバス停前 温泉民宿「一仙」
- 宿 舎 温泉民宿「一仙」 0278(58)7005
- 交 通 JR上越線「沼田駅」から関越交通バス「大清水」行きで『戸倉』下車
(沼田駅よりバスで約1時間35分)
- コース 戸倉＝(マイカーに分乗)＝大清水～一の瀬～三平峠～三平下(尾瀬沼南岸)～尾瀬沼東岸 下山も同じコースを戻ります。*徒歩約6時間
5月5日(土)午後4時頃、戸倉の「一仙」にて解散
- 観察ポイント コース状況(夏道との相違点)、尾瀬沼の積雪状況と水位、アカシガ、取水口と排水口、残雪期のブナ林、護岸工事の確認など
【尾瀬沼の排水口について】
尾瀬沼の水は本来なら全て只見川水系(阿賀野川)に流れるはずであるが、三平下の「取水口」から取水した水は、三平峠付近を850mの地下トンネルを通過してナメ沢の「排水口」から片品川水系(利根川)に流している。
- 参加費 9,000円(1泊3食付、資料代・大清水の駐車料金等を含む)
自宅から戸倉までの往復交通費は各自負担。
- 装 備 残雪期の登山ができる装備(防水登山靴・雨具・防寒衣・スパッツ・ストック・サングラス・手袋・帽子・予備靴下・懐中電灯等は必携)
- 募集人員 12名、受付は申し込み順とし、定員になり次第締め切ります。
- 申込手続 申込みの締切日：平成19年4月28日(土)
参加希望者は、『ハガキ』(またはFAX・電子メール)に“**尾瀬沼観察会参加申込み**”と表示し、**住所、氏名、電話番号、初日の一仙への到着予定時刻、夕食の有無**を記入のうえ、担当の永島宛お送りください。
- その他 参加申込みの方には後日、メールやハガキ等で最終のご案内をいたします。
以上

申
込
み
先

〒367-0212
埼玉県本庄市児玉町児玉1324-8
永島勲(尾瀬沼観察会担当理事)
電話・FAX 0495(73)1032
電子メール inaga@maple.ocn.ne.jp